

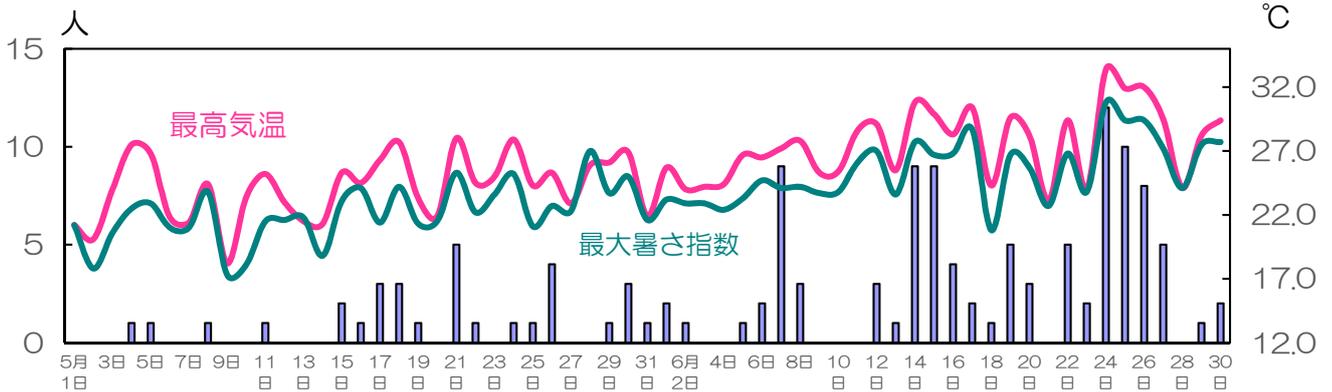
熱中症情報

<搬送数>

令和6年4月29日～6月30日までの搬送数（消防局データを使用）は、計131人（4月0人、5月31人、6月100人）でした。6月24日は、搬送数が12人/日と、期間内で最多を記録しました。この日は、最高気温が33.4℃、暑さ指数が30.8で、どちらも期間内での最高値でした。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。

身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、熱中症の予防に努めましょう。



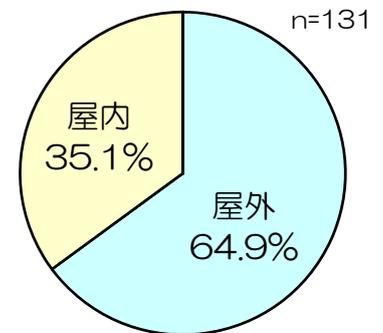
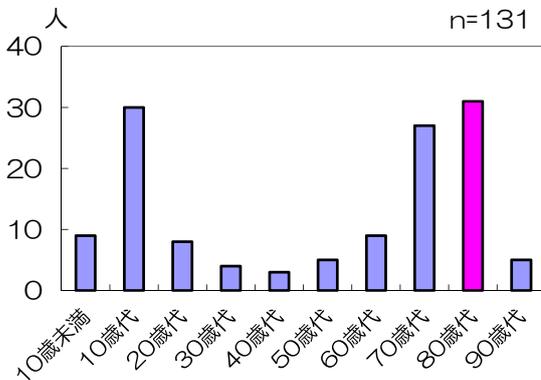
暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

<年齢別>

80歳代が31人（23.7%）で最も多く、次が10歳代で30人（22.9%）でした。

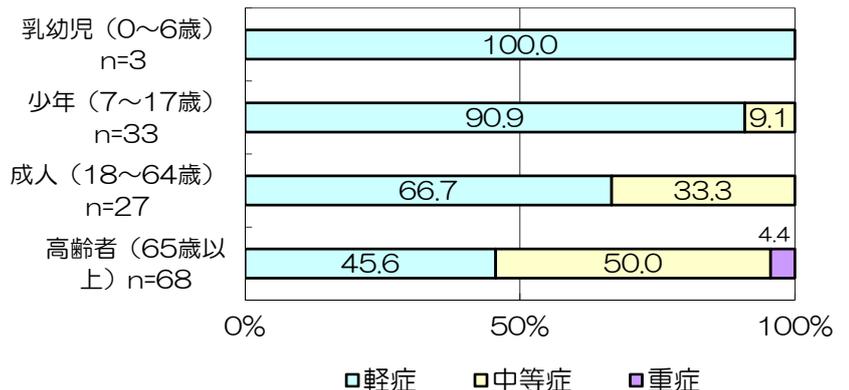
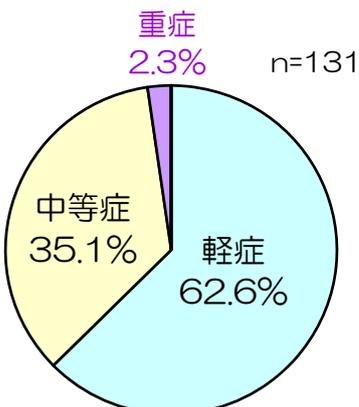
<発生場所>

屋外64.9%、屋内35.1%で、屋外での発生が多くなっています。



<重症度*>

軽症62.6%、中等症35.1%、重症2.3%でした。高齢者で中等症以上の割合が54.4%と高い傾向が見られました。



*重症度の定義（横浜市熱中症情報）

※小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。